

光の子だより

令和 5年 4月 6日
千葉県立作新小学校
校長 遊間 京子

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたく たくましい」子どもの育成

☆期待する子ども像☆

自ら学び、よく考える「かしこい」子ども
思いやりのある心豊かな「あたたかい」子ども
丈夫な心と体を持つ「たくましい」子ども

桜舞う季節に、花びらで埋め尽くされた草木に目を奪われて、日本人でよかったと実感しています。心も春色に染まっているように感じながら、これから始まる新たな年度に向けてドキドキしています。作新小学校は創立48年目となり、新しい12名の教職員を迎えて、2023年度がスタートしました。

来週4/11(火)の入学式で新1年生を迎え入れる準備をしていますが、児童470名、教職員32名という体制で作新小学校の教育活動をしていきます。子どもたちがこれからの社会を生き抜き、幸せな人生を歩んでいかれるように、『安全・安心』『命と人権を守る』学校であること胸に留め、保護者や地域の方々とともに喜びと笑顔があふれる学校になるように力を尽くして参ります。

さて、千葉市の目指す子ども像は「夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども」です。より自分の力で進んでいくことが強く打ち出されました。教育目標は「自ら考え 自ら学び 自ら行動できる力をはぐくむ」です。本校の教育目標の前半部の「一人一人のちがいを大切にし」は、これからの社会を生き抜く力として大変重要だと考えています。自分とちがう考えや意見は排除しがちなので、大人の社会でもこの多様性の理解は一番難しいものです。互いにちがいを認めて理解していくことができれば、誰もがよりよく生きていかれるようになるのではないのでしょうか。10年後に社会で生きて働く力となるように、正解のない時代を生き抜く力をつけるために。



「根っここの力」～本当につけたい「学力」～

庭の草取りは『草抜き』でないと、すぐに雑草に覆われてしまいます。見えている葉っぱだけでちぎってしまう時とは違い、根っこから丁寧に抜いた地面は長時間きれいに保つことができます。

詩人：相田みつをさんの作品です。

花を支える枝

枝を支える幹

幹を支える根

根は見えねんだなあ

また初等教育に力注した東井義男先生の言葉です。

見えないところで

見えないものが

見えるところを支え

生かし 養い あらしめている

見えないところがほんものにならないと

見えるところもほんものにならない。

子どもたちの学力が大きな一本の樹木だとします。目に見えない根っこにあたる学力とは何か？学ぶことへの期待や、ものの見方や考え方の広がり、人とのつながりや自然や郷土への愛、心の力や豊かな人間性に近いもののように思います。単なる丸暗記や点数ではなく、例えば、想定外のことが起きて困った時に正解がない中でどう動くか、最善の答えを導き出せるかなど、試行錯誤を繰り返して失敗や成功を繰り返し、人や物や自然と実際に関わり合いながら進むことこそが見える学力とともに見えない学力を育てていくのだと考えます。その学力を自分のためにも人のためにも、これからの社会のためにもよりよく活用できる人に育ててほしいと願っています。最後に保護者のみなさまへ、お子様が笑顔で過ごせますように、何かお困りのことがありましたら、ご連絡をお願い致します。共に成長を見守り、共に考えていきたいと思っております。